

音鑑・冬の勉強会 2022

2022年12月14日～28日
インターネット講習（オンデマンド動画配信）

よりよい授業を実現するために、音楽科の指導について研修する「音鑑・冬の勉強会」を、昨年に続きインターネット講習（オンデマンド動画配信）で行いました。

プログラム：① 講演「新学習指導要領及び新観点による評価から見えてきた成果と課題」

② 講演「教育社会学から見た音楽文化」

③ 講演「現代に息づくさまざまな日本の民俗芸能」

④ 助成研究発表「問題発見・解決能力を高める音楽鑑賞の授業デザイン」

⑤ 実践発表「GIGAスクール構想における音楽科授業でのICT活用」

講師：① 河合紳和（文部科学省教科調査官） ② 西島 央（青山学院大学教授）

③ 小岩秀太郎（全日本郷土芸能協会常務理事兼事務局次長）

④ 齊藤貴文（北海道教育大学附属釧路義務教育学校後期課程教諭）

⑤ 北川真里菜（和歌山大学附属小学校教諭）、酒井哲志（東京都品川区立大原小学校主幹教諭）、

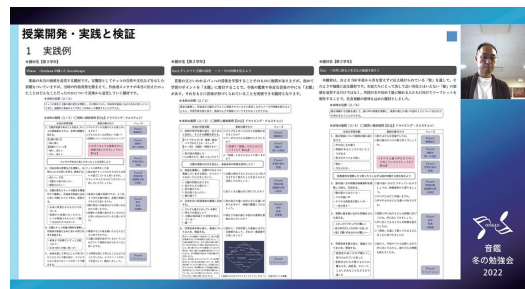
板橋 薫（宮城教育大学附属中学校教諭）、田那辺祐希（東京都文京区立第八中学校教諭）

●講演「現代に息づくさまざまな日本の民俗芸能」



▲自身も岩手県鹿鹿の継承者。祈願するという役目を担ってきた踊りや音楽といった芸能や祭りを、3つのカテゴリーで俯瞰して紹介しながら、芸能の意義と、現代に芸能がなぜ必要なのかについてお話いただきました。

●助成研究発表「問題発見・解決能力を高める音楽鑑賞の授業デザイン」



▲研究テーマについて、先行研究を参考にしながらも、目の前の生徒の実態から修正を加えて鑑賞授業モデルを開発し、実践と検証を重ねた研究成果を報告しました。

【アンケートより】

- ・自分の授業方法について、課題を突きつけられた内容でした。更に授業改善に努めたいと思いました。①
- ・音楽の社会における役割、多様性や格差を理解して授業に臨むことの大切さが分かりました。②
- ・貴重な画像や映像を拝見して、民俗芸能の意義や文化の継承について考えさせられました。③
- ・どこまでを生徒にさせ、どこから教師が担うかという内容の精査が大事だと改めて思いました。④
- ・無理なく取り組めるという意味で、たくさんの事例をいただきました。実践してみようと思います。⑤
- ・成果だけでなく、課題についてもわかりやすくまとめられていてよかったです。⑤